

物性物理学・一般物理学分科会（第 23 期）活動報告

2018 年 1 月 17 日

伊藤公孝(第 23 期分科会委員長)

委員および役員

委員 4 1 名（「提言」名簿をご覧ください）で構成。

委員長(伊藤公孝)、副委員長(五神真)、幹事(河野公俊、森初果)。

分科会

5 回の分科会を開催した。

主な活動

- (1) 提言 WG（河野公俊主査）
- (2) 物理教育研究 WG（覧具博義主査）
- (3) シンポジウム：「物性物理学・一般物理学分野の発展と大型・大規模研究計画」を開催（2016 年 3 月 11 日）
- (4) 物理学会との連携シンポジウムに協力、「拡大物性委員会」との連携

意思表出

提言 「物性物理学・一般物理学分野における学術研究の発展のために」をまとめ公表した（2017 年 9 月 8 日）。

物理教育研究 WG 活動とりまとめ

物理教育研究 WG 活動では、今期の活動報告書を取りまとめた（別添）。

23 期に参照基準（何を教えるのか）が出来た。この WG では、どのように教えれば良いか、という研究の重要性を実証。エビデンスをまとめた。実際に大学の物理学教育に携わるものは、物一分野が多いので、本分野で検討を始めた。

24 期は、次のステップの検討に進んでもらいたいと分科会で意見集約。関連して、物理学委員会に申し送りを希望。

申し送り

物理教育研究 WG 今期の活動をふまえ、物理学委員会に対し、「物理教育研究」について 24 期では物理学委員会での検討をお願いしたく、物理学委員会の申し送りに含めていただきたいと希望を述べた。

その他

22 期迄は物性研の委員など物一分科会への推薦依頼があり、審議手順が整理され候補の選考などが行われて来たが、23 期では物理学委員会で選考された。

日本学術会議公開シンポジウム



物性物理学・一般物理学分野 の展開と大型研究計画

日時 2016年3月11日(金) 9:30-16:30 (受付 9:15 開始)

会場 日本学術会議 講堂 <http://www.scj.go.jp/>

東京都港区六本木 7-22-34

東京メトロ千代田線「乃木坂」駅下車出口5番より徒歩1分

趣旨

日本学術会議第三部物理学委員会物性物理学・一般物理学分科会では、マスタープランへの提案にあたり、本シンポジウムで関連分野に計画を紹介して、広く意見交換を行います。さらに、若手研究者による研究の発表を企画して討論や交流等を行い、研究の振興、および分野の発展を図ります。

プログラム

開会挨拶	伊藤公孝 (核融合科学研究所)
文部科学省からのメッセージ	牛尾剛文 (文部科学省研究振興局)
大型研究と国立大学の役割	五神 真 (東京大学)
「非平衡極限プラズマ全国共同連携ネットワーク研究計画」	藤澤彰英 (九州大学)
「パワーレーザーによる高エネルギー密度科学の新展開」	兒玉了祐 (大阪大学)
「高強度低速度電子研究施設」	長嶋泰之 (東京理科大学)
「物性科学連携研究体」	岩佐朝宏 (理化学研究所)
<若手研究者によるポスター発表>	
「米陸波長領域の極限コヒーレント光源による 物性光科学の開拓」	幸 雄 (東京大学)
「強磁場コラボラトリー」	野尻浩之 (東北大学)
科学研究費改革について	鈴木敏之 (文部科学省研究振興局)
<討論>	
閉会挨拶	田島節子 (大阪大学)

参加費無料(事前登録不要)

主催：日本学術会議第三部物理学委員会物性物理学・一般物理学分科会

後援：東京大学大学院理学系研究科附属フロンティアサイエンス研究機構、東京大学工学系研究科付属光量子化学研究センター

問い合わせ先：森 初恵 (東京大学物性研究所、hmorei@tsp.u-tokyo.ac.jp)

シンポジウム「物性物理学・一般物理学分野の 展開と大型研究計画」

日本学術会議 2016.03.11

物理学委員会 物性物理学・一般物理学分科会 委員長 伊藤公孝

この分科会のメッセージ(20期より通して)

デュアルサポートの強化

共同研究共同利用の仕組みの強化

大型装置・大規模研究の展開

若手人材の活躍の場

本日

学術研究の今日を知り未来を考える

(五神総長、牛尾課長、鈴木課長のご講演)

23期のマスタープランに向けて(諸提案の紹介と討議)

若手(物性・一般物理)研究者による最先端研究の紹介

